

## ポルトガルの政治安定に終止符

発表日：2015年10月23日(金)

～非多数派政権誕生も不安定な政権運営～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主席エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

- ◇ 10月初旬に総選挙が行なわれたポルトガルでは、中道右派の連立会派を率いる現職のコエリョ氏が首相に指名された。コエリョ政権は議会の過半数を掌握しておらず、10日以内に議会で政策綱領を可決しなければ辞任に追い込まれる。最大野党で中道左派の社会党を率いるコスタ氏が、コエリョ政権に協力するか、政権奪取を目指して政策綱領を否決するかに注目が集まる。
- ◇ 社会党がコエリョ政権に協力する場合、その見返りに緊縮措置の部分的な修正を求める可能性がある。他方、野党勢が政権の政策綱領を否決する場合、政権は辞任し、来年4月以降に総選挙が行なわれる。何れの場合もポルトガルの財政規律が緩み、政局が不安定化する恐れがある。

10月5日に総選挙が行われたポルトガルで政局が不安定化している。首相の任命権を持つカヴァコ・シルヴァ大統領は22日、中道右派の連立会派「ポルトガルの未来」を率いる現職のコエリョ氏を首相に指名した。「社会民主党」と「民主社会中道＝人民党」による中道右派の連立与党は5日の総選挙で107議席を獲得して再び最大会派となったが、改選前に確保していた議会の過半数（定数230、過半数は116議席）を失った（表）。コエリョ氏は総選挙後に、政権奪還を狙ったコスタ氏が率いる中道左派の社会党（86議席）の協力を求めたが、政策面での折り合いが付かず、両党の協議は物別れに終わった。両党以外に議席を獲得したのは、反緊縮や反EU色が強い左派の「左派ブロック」（19議席）と共産党系の「統一民主連合」（17議席）の左派勢など。コスタ氏は当初、左派総結集による政権発足に懐疑的だったが、左派ブロックや統一民主連合が安定・成長協定（EUの財政規律）の見直しやEU離脱などの極端な政策要求を取り下げたことを受け、左派による大連立（122議席で過半数を確保）の可能性を排除しない方針に切り替えた。だが、カヴァコ・シルヴァ大統領は、反EU的な政党が政権入りすれば、EUや市場の不信を招きかねないとし、議会の過半数を掌握できていないコエリョ氏を再び首相に指名した。

コエリョ氏は10日以内に新政権の政策綱領を議会に提出し、信認を得る必要がある。大統領は社会党議員に政策綱領に賛成することを呼びかけている。社会党内には政治安定を優先して、コエリョ政権に協力すべきと考える議員も相当数いる模様だが、重要な議案で党の方針に従わなければ除名や離党を免れない。コスタ氏が将来の政権奪取を狙ってあくまでコエリョ政権と距離を置くか、政策面での歩み寄りを条件にコエリョ政権に協力するかにまずは注目が集まる。コエリョ政権の政策綱領が反対多数で否決された場合、内閣は総辞職する必要がある。ポルトガルの憲法では、次の総選挙まで6ヶ月以上の期間を置かなければならず（つまり再選挙は最短で来年4月初旬）、その間は暫定政権が選挙管理内閣を率いることになる。社会党がコエリョ政権に協力する場合、財政緊縮措置を部分的に緩和することを協力の条件として求める

可能性がある。他方、政策綱領が否決され、来年4月以降に総選挙が行なわれた場合に、中道右派の連立会派が過半数を獲得すれば政局の不透明感は後退する。だが、再選挙で左派政権が誕生すれば、財政規律が緩む可能性が高い。また、再選挙後に今回同様に安定政権の発足が困難となった場合、政治空白を嫌気した大統領が左派の連立発足に傾くことも考えられる。この場合も、左派政党の間には政策面での相違が大きく、長期に亘って安定した連立政権を維持するのは困難とみられる。このように、コエリョ政権が議会で信認されるか否かを問わず、ポルトガルの財政規律は緩む可能性があり、政局が不安定化する恐れがある。ポルトガルは80年代後半以降、中道右派と中道左派の二大政党が政権交代を繰り返しながらも、政治的には安定した国と目されてきた。無論、政局不安定化が直ちにギリシャのような危機に発展する訳ではないが、同国の政治安定に暗雲が立ち込めている。

(表) ポルトガルの議会勢力

政党名	略称	議席数	
		前回 (2011年)	今回 (2015年)
社会民主党	P S D	108	107
民主社会中道=人民党	C D S - P P	24	
社会党	P S	74	86
統一民主連合 (共産党=緑の党)	C D U	16	17
左派ブロック	B E	8	19
動物自然愛護政党	P A N	0	1
総数		230	230
与党		132	107

出所：ポルトガル政府資料より第一生命経済研究所が作成

以上